自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0172900532), 法人名 (特定非営利活動法人 こうえい会), 事業所名 (グループホーム こうえい館), 所在地 (旭川市豊岡8条8丁目1番3号), 自己評価作成日 (平成29年2月23日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvogyoCd=0172900532-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成29年3月23日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営者は、職員の認知症ケアの向上の為、外部の各種研修への積極的な参加を援助し、入居者の幸せな生活や喜びの実現を目指しています。事業所内でも勉強会やケア会議でより良いケアについての話し合いの機会を多く持っています。天気、気候の良い時期には、廊下からデッキに自由に出ることが出来、風や陽に当たりながら、館前を通る近隣の小学校や保育園の可愛い児童や幼児たちとも触れ合い、皆さん癒されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度発足と同時に開設され、利用者が安心と自信、生きる意欲を取り戻すことをサポートして共に歩むことに関わり続けることを大切に創業当時の理念を毎月勉強会を開催して守りながら、地域の認知症ケアをリードしている開設17年を迎える木造2階建て1階部分1ユニット(定員:9名)のグループホームです。職員個々の努力や実績、やりがいなどが各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努め、事例研究会やターミナルケア研修等の内部研修会開催、資格取得への支援や助成金制度を設けて就業環境の整備に取り組んでいる。また、医大生の実習や高校生のインターンシップの受け入れ等で地域との連携・協力、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいのかを把握して、庭作業やレク活動、外食など本人の希望に沿って支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Evaluation (O/□). Rows 56-62 cover various aspects of staff, user, and family satisfaction and support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の詳細について、運営者から説明を受け、事務室壁に掲示している。ケアプラン作成中も、ケアの提供中も、理念に沿っているか振り返りながら取り組んでいる。	利用者が安心と自信、生きる意欲を取り戻すことをサポートして共に歩むことに関わり続けることを大切に創業当時の理念を毎月勉強会を開催して守りながら、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会費を支払い町内会に入会しており、管理者は定期総会に参加し、輪番で班長も担っている。館前を通る児童たちとはにこやかに挨拶を交わしている。	医大生の実習や中学校のインターンシップ受け入れ、近隣の小学校の児童との交流の機会を設けたり、町内会の役員を担うなど地域との交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症に関することをお伝えし、地域の方に認知症理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、家族会の報告、医療との関わり、困難事例、認知症ケアと業務の工夫についてお伝えし、感想や意見をいただいている。	運営推進会議を定期的で開催して、困難事例や事業所の取り組み状況、認知症ケアなど具体的内容について話し合い、そこでの意見等を運営に反映できるように活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導に運営者や管理者が出席し、事業所内でも検討し、法人内の勉強会で職員に伝えている。	市担当者とは、日常業務を通じた情報交換や指導、助言等を得ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、認知症介護指導者として地域貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会規定により職員に周知をおこなっており、身体拘束は行っていない。多動による転倒の危険のある方には、見守りや寄り添い、センサー設置で危険を回避している。館前は交通量の多い道路があり、玄関の施錠は行っているが、廊下のベランダからは自由にデッキに出られ、希望や状況により、散歩、買い物等の外出を日常的に行っている。	身体拘束廃止委員会規定で、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、内部研修会を通じて職員間で共有して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、事業所の前は交通量の多い道路に面している関係から玄関の施錠をしているが、安全を確保しつつ本人の意向を尊重した取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や、法人内の勉強会で学ぶ機会を持っており、入居者の日々の暮らしぶりや様子、身体や表情を観察し、虐待が見過ごされない様注意している。皮下出血のある時は、痛みの有無や動き、原因確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、活用すべき事態は発生していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には利用契約書、各種加算、費用等の書類をお見せして十分説明した後、署名捺印を頂いている。ご家族から認知症状による困惑も伺い、経済的な心配にも対応しており、理解納得を頂いてから、入居契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が不快、不満、不都合と感じる、環境や施設備品、職員の対応等について、運営者に相談し対応している。また、ご家族が思いや希望を伝えやすい雰囲気作りも心掛けている。	家族会を開催して、意見や苦情等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。また、家族等の来訪時には、日常生活の様子や健康状態、意向や意見など話し合う機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望、不満等を管理者が受けた場合、定期的な会議により運営者に伝える機会が設けられ、検討、対処している。内容や状況によっては都度の報告を行う場合もある。	毎月の勉強会や日々の業務、定期的なミーティングの中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士等への資格取得の挑戦を積極的に勧め、勉強の場を提供し、助成金制度や資格取得による昇給もある。また、認知症ケアの事例検討や学びの発表の場もあり、実践力向上ややりがいのある職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、OJTの他、スタッフ研修等の外部研修の案内を積極的に行い、人材育成に力を入れている。研修受講の学びや成果を、法人内の勉強会で発表の機会もあり、職員全員で共有し、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実践者研修やリーダー研修等の外部実習者と話す機会があり、意見交換や交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず管理者がご本人と面談し、会話の中から思いや希望を感じるよう努めている。入居後暫くは新しい環境に慣れただく事に気を配り、本人の言葉を傾聴しながら、寄り添いの時間を多く持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症や悪化、周辺症状、機能の低下等、ご家族は辛い思いを抱えていらっしゃる方が多い。思いを受け止め、ご苦勞をねぎらい、希望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってより良い支援は何なのかを、ご家族と相談し、話し合いを進める中で見つけるよう努めている。現在必要に応じ、訪問診療と訪問口腔ケアを受けている方がいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器拭き、床のモップかけ、庭の手入れや野菜類の収穫等、出来る事や得意な事を、自由に思いのまま担って頂き、入居者と職員は互いに助け合いなが過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館の際には、最近の様子を伝え、コミュニケーションを心掛けている。過去の暮らしぶりや好み等をご家族から伺い、ご本人の喜びに繋がる関りを、相談している。ご家族はご本人との外出や外食により絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前親しかった知人の方の来館はあるが、認知症の進行により、関係継続は困難な場合が多い。	近隣の散歩やスーパーでの買い物、子どもたちとの交流や回転寿司などの外食等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好ましい人と苦手な人がそれぞれあり、認知症状も加わって事実とは違う思い込みや妄想もあるが、互いの居室を訪れたり、庭作業や家事仕事を共同で行ったり、体操やレク活動、懐メロ歌い等に興じたりしている。トラブル時には職員が間をとりもち、関りの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	故人のご家族で懐かしく思われて来館される方もおられ、ウエス等の寄付を頂くことがある。気軽に来館しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から希望や好みを推察したり、直接質問したり、意向を出し易い雰囲気作りにも配慮している。意思表示の困難な方には、ご家族から聞き、表情や行動からの推察を行い、職員間で検討や共有に努めている。	センター方式の活用や生活歴の把握、日々の生活の中での傾聴等で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、職員間で共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お宅訪問や、施設や入院先での暮らしの様子を見せて頂き、ご家族からもお聞きしている。また、サービス利用の際の担当ケアマネさん、看護師さんからも聞き取りや、サマリー等で情報を集め、入居後のケアの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事摂取の力、排泄意思や着脱の手順理解力等の状態を把握し、自力で極力行える関りの工夫や環境整備を行い、思いに合わせた過ごし方を援助し、認知症状の変化をかんさつしている。個人日誌にその変化や様子を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子、特変、認知症状等について報告や話し合いを、職員と計画作成担当者との間で日常的に行われている。主治医や看護師からも助言を頂き、ご家族からも希望を伺うよう努め、作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の希望や意向、医師・看護師からの指導や助言、モニタリングや会議等で職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個人日誌に付け、毎日ケアの内容を確認しながら具体的な実践記録を書くようにしている。1ヶ月毎に評価をまとめ、ケア会議で介護計画を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの車両で、入退院や受診、花見、ドライブ、大型店へのショッピング等、本人の希望に添う外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体的にお元気な方は、近隣公民館の文化祭、夏祭りのショー、地域のお祭りの出店巡り、回転寿司やレストランで外食等、暮らしを楽しむ事が可能。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けるか外部への受診に出るのかは、希望や身体状況により選択は自由。病状の特変や変化時はご家族の同行同席もお願いし、必要時は専門医受診をお願いしている。	受診は、本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。また、日常の健康管理や通院への支援等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制により、日常の様子で気になる点について職員から看護師に報告し、健康管理や医療関連のアドバイスを受けている。病気の重要観点についても指導頂き、外部受診時の病状報告にも役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者がご家族と共に医師から病状や治療計画の説明を受け、本人が安心の看護が受けられる様、病棟看護師に認知症状や生活状況を伝えている。入院中は面会に行き、担当医師や看護師よりお話を伺いながら病態の把握に努め、早期退院に向けての相談もを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	病状悪化の可能性のある方に、ご家族に延命希望を伺うことや、グループホームでの看取りを希望されているご家族もおられ、都度の話し合いを行っている。また、他事例の検討や、ターミナル研修により、取り組みの準備を行っている。	重度化した場合は、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。また、ターミナルケア研修を継続的に実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を2年に1回程受け、心肺蘇生法や手当の方法を学んでいる。緊急時に医療に繋げる情報整理や搬送先の確認等を行い、もしもの時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全な避難や状況に応じた避難方法の話し合いと避難訓練を、年2回行い、記録している。運営推進会議で地域の方にもお伝えし、意見等伺っている。	昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、安全な避難方法を話し合っている。また、緊急時に備えて救急救命講習や心肺蘇生法の手当ての方法を学んでいる。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症による失敗や失行、失禁、繰り返しの言動等は、他者から嘲笑や非難を受けてしまうことが多いので、素早い対応や、片付けを行っている。生活歴や性格に配慮しながら、声掛けや対応を行っている。	理念や認知症ケア等の継続した研修会を開催して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を職員間で共有できるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい、買いたい、出掛けたい等の希望があれば、体調や状況を勘案し、思いに添っている。希望の言えない方には、理解力に合わせて、選ぶという形で決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日課や決まりは無いので、買い物や散歩、庭作業、ボール遊びや懐メロ、カード遊びやお喋り等、それぞれの思いや体調に合わせて暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の色やデザイン等、希望を伺いながら、外出援助で購入する事もある。日々の整容が困難な方には、起床時や外出前に職員が介助している。ご家族や本人から髪型の希望を伺い、髪カットは訪問美容師に依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を直接伺ったり、テレビや雑誌で美味しそうというのを気に留め推察する等で、メニューに加えている。スーパーでの食材選び、下膳、台拭き、食器拭き等、出来る事を担って頂いている。食欲も大変良い。	嗜好の把握や柔軟な献立作り、職員とスーパーでの食材選びや食事の準備を職員と一緒にするなど食事が楽しみなものになるよう支援している。また、時には外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取表で量を確認し、咀嚼、飲み込み、嚥下状態や病態により、刻み・とろみ食を提供している。食材品目がバランス良く提供出来る様、皆で献立チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	独歩の方は毎食後洗面台に行き、自歯や義歯をブラッシングしている。移動が難しい方は、食卓やベッド上で口腔ケアを行い、口漱ぎ可能な方は、ガーグルベースを使い、難しい方は口腔清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考にパターンの把握と、行動観察による、尿意便意の推察でトイレに誘い、失禁を減らせるよう努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、誘導や声かけ等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により頻度と量を把握し、食事面では野菜やイモ類、根菜類、乳製品、水分等の適正摂取を心掛け、運動面では、館内歩行や家事仕事、外散歩や庭作業等で自然な活動を日常にお勧めしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回の入浴日には、時間の希望を伺い入って頂いている。認知症により希望を適切に表わせない方には、表情や様子を見てお誘いのタイミングを助言したり、排泄後に入って頂く等して、気持ち良く入って頂いている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2回を目安に入浴支援をしている。また、希望を表せない方にも気持ちに添った誘導と工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に心地よい適度な活動や作業により、夜の安眠を目指している。認知症により適度な休息を取れない方には、体調や様子を見て、居室で横になってもらって休息を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から発行される説明書により、薬の効能や注意事項について確認している。個々の病気や既往を把握に努め、薬の増減や変更後は特変や状態変化の有無を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の花や作物の世話、家事仕事等自らの希望や意思で行い、職員からのお礼の言葉に笑みがこぼれる。懐メロや童謡を口ずさみ、体操やボール投げを頑張り、外食や外出を喜ぶ等、それぞれの楽しみがある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	予めの予定の場合もあるが、天気や気温で、外出したい気分の時に散歩や買い物に出掛けられている。ご家族と共に外食やお茶のみに出掛けられている。	一人ひとりのその日の希望に沿って近隣散歩や食材の買い出し、庭の手入れや地域のお祭り見物、ドライブや回転寿司等の外食で戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、家族と共に帰省や外食、外泊もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無い不安を感じている認知症の方のお気持ちを思いながら、事務所でお小遣いをお預かりしている。買い物の楽しみは大きく、食べたいおやつ、気に入った小物や衣服等を選び購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚の方からの電話で、希望があれば電話に出て頂いている。絵手紙や絵葉書が届くと、本人にお渡しし、居室に飾っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月や節句等、季節が分かる置き飾りや壁飾りを用意している。テレビの音量や、窓からの太陽光の遮光具合にも気に掛け、温湿度計で確認しながら、館全体の居心地の良さを感じていただけるよう配慮している。	利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、季節毎の絵や花が飾られるなど生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は気の向くまま自由な場所で過ごすのが、認知症による不適切に思われがちな発語や行動のある方が非難を受けない様、座る場所は雰囲気や案内して職員が誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みの家具や食器、思い出の写真や趣味の小物等を持ってこられ、住み良いお部屋作りをご家族と共に相談している。	居室には、使い慣れた家具や寝具、思い出の写真、趣味の小物等を持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、居室、ベッドに必要な応じ手摺を付けている。身体機能の低下があっても、その方の有する力に合わせ、可能な限り自身で動いて頂けるような、対応や声掛けを心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームこうえい館

作成日: 平成 29 年 3 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	21	認知症による混乱、興奮、多動、大声等がお互い影響しあい、他の方の不快感や混乱、被害妄想や興奮に繋がってしまう	お互い穏やかに、のんびり暮らしたい	不快感に陥る原因を探り、可能なら未然防止を目指す。トラブル発生時は早めに職員が間に入り、強い不快感や更なる興奮に至らない様、関わりやとりなしを行う。	1年
2	46	不安や体調不良、体位交換や排泄交換等により、夜間安眠が妨げられると、昼夜逆転に陥り易い	昼間の心地良い適切な活動で、夜間ゆっくり休みたい	個々の身体状況や理解力に合わせた作業やレク活動を行い、楽しいひと時を増やす。疲労度を勘案し、昼間も適宜休息をとり、夜間は、睡眠の深さや長さを見ながら、排泄介助や体交を行う。	1年
3	29	歩行困難や認知症の進行で、地域に出ることが困難な方が増えている	一人ひとりに合う楽しみを見つけたい	職員と個別な関わりで外出する	1年
4	37	認知症により、思いや希望を表すことが困難な事が多い	皆さんの思いや求める物を探りたい	健康状態や体調、行動や介助時の表情や仕草、発語等、様々な事を観察し、職員間の共有や話し合いの機会を増やし、皆で探る。	1年
5	34	急変や事故発生時の為の学習は継続しているが、不安に思う	実践できる力をしっかり身に着けたい	常に、入居者の皆さんの健康状態確認し、個々の既往や服薬状況や外用薬の把握に努める。館内の環境整備も気に掛け、急変時の再確認を定期的に行う。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。